

国際会議「ヘルスプロモーションを通じた発展： 看護師が重要な成果を生み出す」報告

樋口 まち子

要 約

1986年のオタワ宣言以来、ヘルスプロモーションは先進工業国を中心に健康づくりの柱として健康政策策定に大きな役割を果たしてきた。20世紀後半になるとアジア諸国を始めとする発展途上国でも人口の高齢化や慢性疾患の増加に対応するために、ヘルスプロモーションを視野に入れた健康政策が策定されるようになった。

このような状況の中で、各国国民のヘルスプロモーションに対する看護職が担うべき役割が世界的に問われている。「ヘルスプロモーションを通じた発展：看護師が重要な成果を生み出す」と題した国際会議がタイで開催され、共催校の一つであるミシガン大学看護学部の教授で、世界保健機関(WHO)とともに長年ヘルスプロモーションの研究に取り組んでいるペンダー教授の基調報告は、それに対する回答でもあった。すなわち、看護師は科学者として成長するために、国際的共同研究の蓄積に努め、文化的背景が異なる人々にヘルスプロモーションの介入計画・評価を発展的に進めていくことが重要である。

キーワード：ヘルスプロモーション，看護の役割，文化交流，国際共同研究

はじめに

1986年、カナダのオタワにてヘルスプロモーションの国際会議が開催され、オタワ宣言が出された。その目的は、ライフスタイルの変化に応じた健康づくりにあり、活動の原則は、唱導、能力付与、調停であった¹⁾。また、活動方法は、政策づくり、環境づくり、地域活動の強化、個人の技術の開発、ヘルスサービスの方向転換とされる。

20世紀半ばに、先進工業国の主要死因として、慢性疾患が感染症をしのぐようになって以来、人口の高齢化と慢性疾患の増加は、顕著な形で表れてきた。20世紀の後半になると、発展途上国でも感染症に加えて、人口の高齢化と慢性疾患が国民の健康問題として、表面化してきた。

海外からの経済援助に依存し、政治体制も不安定な発展途上国で、この2重の負荷は、国の発展の桎梏となっている。住民参加型の地域保健活動を通じた地域開発の必要性が高まり、その中で、看護の果たす役割が問われる中、プライマリ・ヘルスケアが成功し、看護教育分野でも力をつけてきたタイで、ヘルスプロモーションの視点で、看護が果たす役割

についての議論がなされた。その国際会議の報告をしたい。

2001年1月31日から2月2日まで、チェンマイ大学(タイ)、ハワイ大学マノア校(アメリカ合衆国)、ミシガン大学(アメリカ合衆国)とウエスタンシドニー大学(オーストラリア)の共催で、「ヘルスプロモーションを通じた発展：看護師が重要な成果を生み出す」と題する国際会議がタイのチェンマイで開催された。会議の参加者700名で海外から170名が参加し、チェンマイ大学看護学部が計画運営を実施した。

アジアの国々でも、人口の高齢化や慢性疾患の増加は、深刻な問題になっている。そして、障害があってもQOL(Quality of Life)を高めながら、その人らしい死を迎えることが大きな課題になっている。看護の果たすべき役割は大きく、多くの健康問題が中程度(Medium)のヘルスプロモーションで解決されることが、経験を通して理解されてきている。このような状況を前提にして、看護師を始めとするコアケア提供者を対象に、ヘルスプロモーションに関連した研究の発展のために文化の異なるもの同士の

交流と国際的文脈におけるヘルスプロモーションの戦略を学ぶ機会を提供することが今回の国際会議の目的であった。

1. チェンマイ大学看護学部

タイの看護教育は、現在のマヒドン大学看護学部の前身である助産婦看護婦学校が1896年に開校されて系統だった教育がなされてきた。その後、1956年にタイで初めての大学における看護婦教育がマヒドン大学看護学部で行われ、1977年に修士課程、1988年には、マヒドン大学、チェンマイ大学、コンケン大学、ソクラナカリントゥラ大学の看護学部が共同でマヒドン大学に博士課程を設置し、国内でも学位が取得できる道が開かれ、看護の研究活動の層が厚くなり、看護実践の場も著しく発展した。

チェンマイ大学は、1959年に看護学部を創設し、現在は、毎年、学部生200名、修士課程で10名と博士課程で5～10名の学生が入学している。また、多くの留学生が長期及び短期コースに参加し、近隣諸国の留学生が大学院で学び、チェンマイ大学看護学部は、近隣諸国の看護の発展にも貢献している。しかも、大規模な国際会議を運営する実力をつけ、国際的な看護発展のために東西諸国の掛け橋の役割を担える実力をつけている。

2. 多種多様な文化におけるヘルスプロモーションの実践：我々は目的を共有することができるのか²⁾。

以下は、ミシガン大学のNola J Pender*の基調報告を中心に会議をまとめたものである。

過去、数十年にわたって、世界の多くの国々において疫学的な研究が、環境が健康に与える身体・社会的影響という視点に立って、人々の生活全般を分析してきた。環境問題など国家政策レベルのマクロの問題から地域住民一人一人の行動が地域の健康状況に影響を与えることが明らかになった。たとえば、シートベルト着用の法制化や、健康に影響を及ぼす毒性産物の規制、禁煙の促進、活動的な生活の促進、癌発生の減少、心疾患、麻痺、若年死に対する対策、地域を豊かにする重要な人的資源の充実なども地域の健康状況を左右する要因である。

様々な環境下にある人々の複雑な健康行動を理解するためには、最も弱い立場に置かれている人々に焦点を当てた研究が効果を及ぼすが、そのためには、社会学、行動学、生物科学の分野の協力も必要である。世界には多くの文化が存在するが、それらが健康行動に重要な影響を及ぼしていることは良く知ら

れている。文化は、特別の健康の価値、基準、信念、行動として定義される。世界の人々の健康を改善するためには、様々な文化に対して関心を持つことと政府の関係省庁、健康の専門家、ヘルスケアを提供する団体、教育施設、企業、報道機関、地域の組織や住民、そして複数の組織の参加が必要である。我々は看護職として、専門性を強化するために他の専門分野との連携を図り、ヘルスプロモーションの促進やリスク削減のために協力体制を作り、文化的に弱い立場にある人々に効果的な保健サービスを提供する知識を伝えなければならない。そのためには、以下の3点について十分に理解すべきである。

まず、現時点で看護者は国内外でヘルスプロモーションを実施する機会を有している。第2に、ヘルスプロモーションの研究のパラダイムが変化している。第3に、ヘルスプロモーションに関する異文化間の共同研究を発展させるために戦略が共有されてきている。

1) ヘルスケアシステムにおいて重要なヘルスプロモーション、リスク削減、疾病予防³⁾

ヘルスケアシステムのゴールとしてヘルスプロモーション、リスク削減や疾病予防の重要性が高まっている。政策決定者やヘルスケア提供者や一般の人々は、健康の問題に対応するための人的、社会的、経済的コストが増加していることを認識し始めている。ヘルスプロモーションとリスク削減のためのサービスが、世界中の人々の健康や福祉に関する最善のアプローチだとして期待されている。ヘルスケアの費用負担者は、サービスが効果的であることを確認するために、データに基づき、ヘルスプロモーションやリスク削減介入の成果を調べている。これは、このサービスに対して、人々が自分自身だけでなく家族の保健計画のための費用の負担をしているためである。

人々がどのように望んでいるのか、社会的な条件はどうかという視点にたつて、健康を定義することが重要である。健康に向けた活動は、個人、家族や地域が潜在力を高め、能力やエネルギーを促進する高いレベルの活動であり、人間関係の融和や相互理解を促進し、QOLを最大に達成し、満足した生産的な生活に向けたサポートとしての役割を担う。大変興味深いことは、世界の健康に対する定義が類似してきたことである。たとえば、古くから多くのアジア諸国の文化にすでに存在していた人と環境の融和であるというような健康感が、西洋諸国でも、健康や福祉にとって重要であると言われるようになって

いる。「病気の無い状態」と言うよりは、「十分な」健康状態という考え方に基づく健康感、広く世界的に普及している。

ヘルスプロモーションとリスク削減、疾病予防は以下のように定義されている。

ヘルスプロモーション：個別、集団に対する福祉と住宅環境に関する改善に向けた戦略を含んでいる。

リスク削減：人々の病気や社会的疾病が増加する可能性をもつ生物学、ライフスタイル、環境要因の特定と、リスクの減少と排除を含む。リスクファクターとしては、運動不足、不健康なダイエット、喫煙、飲酒、性行動、劣悪な住居と隣人との隔絶を含む。

疾病予防と健康の保護は、病理的ストレスの原因に対する予防行動、発症した段階の健康問題を特定、疾病になった時の後遺症を最小限にすることに関する戦略でもある。これらの定義は、ヘルスプロモーションに基づいた研究やリスク削減や疾病予防への動機付けの重要性を強調している。実際、両方の動機は共存し、健康行動の推進力を高める。

ヘルスプロモーションと疾病予防は、アメリカでは健康教育用語合同委員会（1991）で以下のように定義されている。“すべての目的意識的行動は、行動変容の戦略、健康教育、健康保護測定、リスク要因の特定、健康維持／増進を含む個人の健康改善及び公衆衛生の改善を目指したものである。”ヘルスプロモーションや疾病予防に対するあらゆるレベルの研究によってこの定義が証明されている。

世界は6,528の言葉と272の異なる文化をもつ国々から成っている。看護職が取り組んでいる健康や福祉の改善は、様々な文化や言葉を前提にして、国際的で普遍的なヘルスケアとして認識されている。国を問わず看護職に課せられた責任は、援助対象者のニーズに合った文化的感性、科学的切り口、経済的可能性や特別の対応に基づいた個人、家族、地域に対する平等なヘルスプロモーションと疾病予防に関する保健サービスの提供及び促進である。多様な人々を援助することは、看護の専門性に対する挑戦であるが、これを達成するために、あらゆる努力を払わなければならない。

2) ヘルスプロモーションの国際的挑戦²⁾

健康に関わるすべての専門家は、ヘルスプロモーションを世界的レベルで、実践するために、より学識のある視点を持つことが求められている。看護者は、ヘルスプロモーションにおける国際的視点を獲

得するために、健康の概念や健康行動及び個人の健康の改善、家族や地域の健康状況が改善するための援助としての保健サービスに文化がどのような影響を及ぼしているのかを理解すべきである。国際的看護集団は、様々な状況下でヘルスプロモーションやリスク削減の理論と同様に介入の計画と実施において、ともに発展していくための共同活動をすることができる。総合的実践と同様に科学的研究によって、看護者は、健康行動、健康的環境や健康公共政策を効果的に促進及び援助するために、文化そのものまたは文化交流の発展的な戦略を構築することが可能となる。

各国の看護者は、相互のコミュニケーションによって、健康の最優先すべき課題の相違点及び共通点などの知識を豊かなものにした。健康に対する関心は、世界的に共有されている。たとえば、多くの国々は経済的安定と健康的労働力を確保するために取り組んでいる。ヘルスケアの費用の急騰と国際市場における競争の激化で、多くの国々の雇用者は、労働者の福祉に的確に出資することが回避できなくなっている。

東洋文化は、ヘルスプロモーションの決定は、個別ではなく家族が決定する。西洋文化では、ヘルスプロモーションは、個人的決定として認識されている。しかし、個人及び家族のメンバーが健康的なライフスタイルを維持するためには、地域環境を改善するためのエンパワーとなる家族単位への援助の必要性が世界的に認識されてきている。

世界のほとんどの国で、まだ、一部、貧しい地域でヘルスプロモーションサービスに対するアクセスが欠如していることが深刻なジレンマを生み出している。ヘルスプロモーションの実施は、各国の社会的、環境および行動が持つ原動力の相互に作用されて効果を生み出す。すでにサービスを受けている集団に対しては、彼らの文化により適合したサービスに改善し、さらに、ヘルスプロモーションや疾病予防に対するサービスのアクセスを拡大することによって健康状態の格差を消滅することは、世界的に最優先すべき課題である。

3) ヘルスプロモーション研究における文化交流

ヘルスプロモーション研究を世界的に共有することは、住民中心、対象者中心とした一連の幅広い介入の効果について相互に学ぶ良い機会である。文化交流という考え方が、介入の研究を科学的に構築することを可能にしている。メキシコにおける最近のヘルスプロモーションの会議では、看護者の重要な

活動である環境改善や新たな社会的基準の改善を通し、地域全体で、身体的な活動を促進するための方法が共有された。科学者は国の枠組みを超えて研究の成果を共有することによって、ヘルスプロモーションやリスク削減を科学的に急速に発展させることができるのである。

一国から他の国へアセスメントや介入の戦略が発展的に移行することによって、文化的な適合性や的確性に関する介入課題を世界的に共有することができる。ある文化を他の文化が評価することで、介入の発展とどのように関連性があるのか。移行過程に対する挑戦において文化的な意味とニュアンスには違いがあるのか。文化の違いによって健康の意思決定の方法は異なるのか。集団によって健康モデルは異なるのか。国境を越えた健康行動の動機となる要因は集団によって違いはあるのか。国と国の間で、介入の文脈に違いがあるのか、もしそうだとしたら、どのように異なるのか。文化交流のための科学的なプロセスを構築するためには、これらすべての疑問に対する回答が必要である。

この点に関して、異文化集団に対するヘルスプロモーションの計画、評価について研究するためにはいくつかの課題がある。

(1) 理論の文化的適合

一つのモデルが理論化され、その理論が他の文化集団にとって意味をなすものであるなら、集団を代表しているとみなされる対象へのフォーカスグループや個別インタビューなどの質的調査を実施することは、他の文化に適合するヘルスプロモーションモデルや理論を構築するために重要なことである。様々なモデルや理論が確認されたヘルスプロモーション行動は、援助対象の文化の枠組みと関連している。その結果、他の国々の理論やモデルが、他の文化にも良く適合するのである。

(2) 介入の文化的関連性

ヘルスプロモーション介入がどのように構築し、実施するのかがその効果を確認する上で最も重要なことである。介入の最終的ゴールは、行動変容のために行動する用意がある集団や予め選ばれた対象者に適した介入をすることで最大限の効果を上げることである。すなわち、他の文化集団への介入計画が選択されている場合は、異文化集団に適合するかどうかを分析しなければならない。大規模な研究を実施する前に、介入がどれほど人を引き付け、強力であるかを確認するためにフォーカスグループを使い、

効率を確認するためにはパイロットテストをすることが重要である。疑問は常に起こる。たとえば、「研究によって新しい分野で理論を生み出すための高度な可能性を持った介入方法が作成されたか」などである。介入が行動変容を促進するために文化的適合が必要である。

(3) 成果の文化的関連性

研究者が異文化地域にも同様の介入研究を実施しようとするなら、ある地域で測定された従属変数や介入の成果を厳密に分析し、理論化しなければならない。介入の成果が自然な行動であり、かつ介入の結果が的確、期待されたものであるなら、行動の範囲は文化によって異なるのである。たとえば、アメリカの子供の身体的活動の測定方法は、台湾の若者に使用する前に改訂する必要がある。アメリカの一般的なレクリエーションは台湾の思春期の子供たちには、不適當であり、伝統的な中国のヨーヨー、フラフープなどを加えなければならないだろう。このようなプロセスを経れば、身体的活動全体の分析に適合し、しかも新しい対象集団の文化に適合したレクリエーション活動にも活用できるのである。

(4) 測定ツールの文化的適合

他の国で開発された測定ツールの利用は、活用する方法や各項目が持つ意味について十分に検討する必要がある。現地語で作られている測定ツールは、活用できるかどうかを判断する前に、まず翻訳をする必要がある。もし、翻訳するのなら、測定ツールの基本的な部分がすべて網羅されているかどうかを十分に確認する必要がある。

最後に、研究計画、介入やツールが異文化間で共有されるなら、重要な文化的及び科学的詳細を十分に把握する必要がある。このような取り組みは、ヘルスプロモーション研究における文化交流の利点を獲得することの妨げになるべきものではない。

3. 国際的ヘルスプロモーション共同研究の促進

国際学術会議における学術的交流は、ヘルスプロモーション研究を実施する科学者のネットワークを拡大するために良い機会である。その他にも、インターネット、Eメール、電話、ファックスや海外旅行など、科学者間で海外共同研究を促進するための情報交換の方法はたくさんある。そして、このような共同研究の促進は、以下のような利点を生み出すのである。

- ① 国の同分野の研究仲間のヘルスプロモーションに関する介入の状況がわかれば、関連した情報がグループ間及び個人間で共有できる。
- ② 異なる文化における健康行動認識に関する研究交流を促進できる。
- ③ ヘルスプロモーションモデルや理論に関連した文化交流の批判的分析の機会を提供できる。
- ④ 測定ツールの開発と異文化間での有効性を提供できる。
- ⑤ 複合文化におけるヘルスプロモーションの効率と効果の検証の機会を拡大できる。
- ⑥ 多数の分析方法や系統的根拠を協調することができる。
- ⑦ ヘルスプロモーションとリスク削減の重要な科学的課題を焦点とした国際的視野にたった論文を準備するための協力体制ができる。

国際的な共同研究は、それに関わるすべてのメンバーに利益を及ぼすものである。共同研究は科学分野でさらに創造性を発揮できる道筋になるのである。複数の研究者が彼らのエネルギーや専門性を統合すれば、科学分野の活動を共有できるのである。

世界の人々に対する大変効果的なヘルスプロモーションやリスク削減介入を導く機会が多い。我々は、看護の科学者として、文化的に異なる集団、特に貧困層に対するヘルスプロモーションの科学、効果的な介入の計画やその検証を充実させるために、ともに研究をする必要性が高まっている。健康科学の新たな目的を共有し、健康の促進に向けた社会の要請に応え、世界的にも健康に関する格差を是正することが求められている。

おわりに

1978年にWHO/UNICEFがアルマ・アタ宣言を行い、健康福祉政策に柱としてプライマリ・ヘルスケア (PHC) を提唱し、世界各国が、健康のレベルアップのためにPHCを健康政策の戦略として活用してきた。その成果が、1986年のカナダのオタワでのヘルスプロモーション宣言を導いたと言える。看護職の活動も、世界的にこの政策の実施には、大きな役割を果たしてきた。しかし、他の医療の専門職と比較して役割の明確化と評価が十分であったとは言いがたい。

現在、ヘルスプロモーション研究は国際化へとパラダイムシフトをしている。看護の科学者は、効果的なヘルスプロモーションと疾病予防サービスを文化的背景が異なる人々にどのように提供していくかを新しいパラダイムの科学的認識を高め、開発研究の先駆者になることが求められているのである。

*) Nola J Pender はミシガン大学看護学部研究センター研究・看護研究の副所長。学童・思春期の健康行動研究センター長。学童／思春期の健康行動を測定するためにヘルスプロモーションツールを開発し、国際的に普及している。ミシガン大学看護学部は、ヘルスプロモーション研究所を持ち、WHOと共同研究を実施している。

参考文献

- 1) 松田正巳：健康福祉を規定する要因，健康の政策科学（新井宏朋編）22-31，医学書院，東京，1997。
- 2) Nola J.Pender：Health promotion interventions for culturally diverse populations：can we meet the challenge？ International conference, Improving life through health promotion：Nurses making a difference, proceedings, 38-49, 2001.
- 3) Desmond O'Byrne：WHO and health promotion policy, International conference, Improving life through health promotion：Nurses making a difference, proceedings, 50-59, 2001.

Report on the international conference, “Improving Life through Health Promotion : Nurses Making a Difference”

Machiko HIGUCHI

Abstract

Health promotion has obtained a high importance in the formulation of new health policies, especially in industrialized countries since the Ottawa declaration. At the end of the 20th century, health promotion was integrated into exiting health policies in developing countries in order to solve new health issues such as the increasing elderly population and chronic diseases.

Nurses all over the world have to play an active role in order to perform effective health promotion activities and obtain satisfactory results from such intervention. An international conference titled “Improving Life through Health promotion : Nurses Making a Difference” was held in Thailand in January 2001. One of the key speakers, Professor Nola J. Pender who is the Dean of the research center for nursing research, University of Michigan, USA who has done extensive research on health promotion with WHO, reiterated that nurses, as scientists should make every effort to develop international research partnership so that they can expand the science of health promotion, design and test the effectiveness of interventions for culturally diverse populations.

Keywords : Health promotion, role of the nurse, Cross-cultural exchange, International research partnership

Faculty of Health Sciences, Okayama University Medical School